

緑の募金30万円を寄付

高松信用金庫

高松信用金庫（伊賀二千廣理事長）は、5月10日、財団法人「かがわ水と緑の財団」（野田斎理事長）に対し、「緑の募金」として30万円の寄付を行った。

同金庫では、今年1月から6月までの期間中、法人・個人の顧客を対象に定期積金「水と緑100」（掛け総額30億円）を取り扱いし、募集金額に到達次第、総額の0・01%を財団に寄付するものとしていた。

3月11日に早々と募集金額に到達したことから、このほど寄付金の贈

呈式を香川県庁にて実施したもので、伊賀理事長から野田理事長に対し、目録が手渡された。

寄付金は、県内で手入れが必要な森林での植栽等の整備（森林づくり事業）や、地域住民が日頃触れあう機会の多い場所での緑化事業（緑の広



相続・事業承継対策 タックスプランニング

船井 高松 検索 ☎ 0120-984-985 ☎ 087-834-0122
(株)船井財産コンサルタント高松

国際的ジャズピアニスト
山中千尋を迎えるライブ開催
スピークリー

カフェ＆ライブスペース「スピー

る50万円の寄付を実施している。
期預金「EART

H」（募集金額50億円）の0.01%にあた

料金 前売り四千五百円（当日五千円）入場時に別途ドリンク代五百円必要

日本臓器製薬は、帯状疱疹後神経痛の適応症を国内で初めて取得したノイロトロピン錠の開発メーカー。

帝國製薬（東かがわ市三本松）

帝國製薬（東かがわ市三本松）

同社が開発・販売に強い関心を示し今回の契約締結に至った。

帯状疱疹後神経疼痛 治療薬を共同開発

日本臓器製薬は、帯状疱疹後神経痛の適応症を国内で初めて取得したノイロトロピン錠の開発メーカー。

同社が開発・販売に強い関心を示し今回の契約締結に至った。

▼人気女性小説家。相次いで発表小説がテレビドラマ化されるヒットメーカーである有川浩さん。女性でありながら、デビューから小説のテーマに出てくるのは、自衛隊といった軍隊や戦争などの硬派は話題を取り上げることが多くたが、現在、映画公開中の「阪急電車」のよう、日々の日常を描いた人間味溢れる作品も発表。正にマルチな才能が人々を魅了する。高知県出身の彼女が今年発表したテーマが「県庁」。最新作「県庁おもてなし課」は、出身地である高知県の県庁にある実在の課が舞台の小説。自衛隊をテ

マにした作品でも「ラブ」の要素がしつかり盛り込まれていたが、今作でもそれは踏襲。主人公がもまれながらも成長し、恋愛も経験しながら大人になっていく過程を、独特的のペンタッチで書き下ろしている。▼有川さんは高知県でのあるイベント参加時に、「高知県おもてなし課」の人と名刺を交換。その際に「観光特使」として故郷高知のPRために一役買ってもらえないかを打診され、二つ返事で受けたが、その後1ヶ月以上経っても県からいつまでないか」と聞いたそうである。そうしたら電話口の県の担当者が「お願いします」と答えた。この作品全体にそうした「潔さ、かっこよさ」が感じられる。お役所仕事と民間発想との狭間で揺れる、主人公の課員がさわやかに描かれている。▼

地方を元気にが基本テーマとなつている小説なので、そのためのノウハウなどもちりばめられており、そうしたまつた。そのときの電話口での会話

で、まだ具体的なことが何も決まっていないと知った有川さん。「私が協力出来るとしたら小説を書くこと。ただしおもてなし課を題材に、しかも冒頭ではけちんけちんにこぎ下ろして書くけれど、それでもいいか」と聞いたそうである。そうしたら電話口の県の担当者が「お願いします」と答えた。この作品全体にそうした「潔さ、かっこよさ」が感じられる。お役所仕事と民間発想との狭間で揺れる、主人公の課員がさわやかに描かれている。▼

日本臓器製薬は、帯状疱疹後神経痛の適応症を国内で初めて取得したノイロトロピン錠の開発メーカー。

同社が開発・販売に強い関心を示し今回の契約締結に至った。

<